

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和元年8月25日現在

今月の重点活動

■新規就農 第3回吉城・高原地区夏秋トマト新規就農者勉強会を開催

吉城・高原地区ではJAひだ飛騨地域トマト研修所を中心に夏秋トマトの新規就農者や若手生産者が増加している。

農業普及課では、8月21日（水）に現地ほ場において、夏秋トマトの栽培経験が5年以下の新規就農者を対象に勉強会を開催した。

勉強会では、摘心時期と摘心前後の肥培管理について、先輩トマト生産者や営農指導員、関係機関からアドバイスを受け、高度な栽培技術の習得に取り組んだ。また、新規就農者同士のコミュニケーションも図った。

農業普及課では、今後も定期的に勉強会を計画しており、トマト研修所、JA等関係機関と連携しながら、新規就農者の夏秋トマト栽培技術向上に向けた指導を進め、産地の活性化につなげていく。



【指導者と摘心方法を再確認する新規就農者達】

多様な担い手づくり

■担い手 農業次世代人材投資事業対象者の就農状況確認を実施

飛騨市、高山市では、農業次世代人材投資事業の給付対象者に対して就農状況の確認調査を行った。対象者は飛騨市10名、高山市29名であり、各市の担当者、飛騨農林事務所（農業振興課、農業普及課）、JAと協力して、本人に経営開始計画に対して現在の経営規模、生産量、売上高、ほ場の現状、帳簿の管理状況等を聞き取り今後の課題も確認した。

計画以上の生産量や売上を伸ばしている就農者も多いが、計画通りに進んでいない就農者に対しては、今後生産技術、経営管理などの面で支援をしていく。



【就農者から聞き取り確認】

■ほうれんそう 若菜会現地研修会の開催

7月30日（火）、飛騨ほうれんそう部会の若手生産者の組織「若菜会」の現地研修会が開催され、25名程度の若手生産者が参加した。農業普及課では、事前に若菜会役員及びJA担当者と研修内容の打合せを行い、経営能力向上につながる研修を企画した。当日は管内の同年代の生産者を見学し、空調設備の整った調製作業場や灌水ムラ軽減のためのノズルピッチの変更などそれぞれ工夫している点と自分との違いを確認し大いに参考になったものと思われる。また、普段なかなか顔を合わせる事のない若者同士の交流の場にもなり、大変有意義であった。

今後は市場担当者との意見交換会なども計画しており、農業普及課では、今後の活動に対し、支援を継続していく。



【圃場視察の様子】

売れるブランドづくり

■キャベツ 高山市荘川町のキャベツは今年も高品質

高山市荘川町の黒谷ダナ生産組合では2人の農家が、標高1200～1300mの高標高地の約3haの圃場でキャベツ栽培を行っており、出荷7月半ばから9月半ばころまでが最盛期である。ダナ地区は冷涼な気候のため、生育がゆっくりで、標高差が少ないため、品質が安定する。このため一般に暑さのため品質が劣化しやすい夏でも「重いキャベツ」を安定生産できる。「重いキャベツ」は千切りにすると4倍に膨らむほど高品質であり、地元のスーパーでも高値で販売されるなど、荘川産の評価は年々高まっている。今後は昨年からはじめた都市部の高級店での販売の増加など、高品質が十分に評価される取引が期待される。農業普及課は、生産農家に対し効果的な農薬使用法を指導しており、病虫害対策面からの安定生産に取り組んでいる。

■大豆 古川町大豆生産組合現地研修会が開催

8月9日（金）、大豆の生育状況の確認と栽培技術の向上を目的に古川町大豆生産組合の現地研修会が開催された。

研修会では各生産者の栽培ほ場を巡回し、今年から全面的に切り替えた新品種「里のほほえみ」が順調に生育していることを確認した。

農業普及課では、栽培管理研修として病虫害防除など今後の管理について指導を行うとともに、近年問題となっている帰化アサガオ対策等の栽培上の課題について情報を提供し、これを契機に生産者間で活発に意見がかわされた。



【大豆ほ場での検討】

■水稻 水稻採種ほ場で審査を実施

高山市丹生川町の約25haのほ場において「たかやまもち」や「ひとめぼれ」など5品種の採種事業を実施している。採種ほ場で生産された種子は、次年度に一般種子として生産者に供給されるため、厳格なほ場管理が求められている。

8月7日（水）及び8月16日（金）には、県主要農産物種子審査員に任命された農業普及課職員等により審査を実施した。各審査員は、ほ場ごとに生育状況を確認するとともに、異品種や変異株の有無、雑草や病虫害の発生状況について基準を満たしているか審査を行い、水稻種子に求められる純粋性や健全性が保たれているか確認を行った。今後は、適期刈取指導等を実施し、次年度の種子が確実に確保できるよう指導を行っていく。



【審査員によるほ場審査】

■モモ 飛驒桃PR試食販売会を高山市内にて開催

8月11日（日）、飛驒桃の本格的出荷にあわせて、高山市内2店舗のスーパーにて、PR試食販売会を開催した。

当日は、飛驒高山高校山田校舎の生徒と関係機関が一体となり、今年度収穫された飛驒桃を振舞い、PRを行った。

試食会では、生徒が作成した飛驒桃に関するアンケートを実施し、消費者の意見を収集した。販売会では、管内生産者が生産した新鮮な果実が販売された。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、今回のアンケートで得られた結果を踏まえて、飛驒桃の販売活動を支援していく。



【PR試食販売会の様子】

■メロン 飛驒メロン研究会共進会開催

飛驒管内全域で組織する飛驒メロン研究会の共進会が行われた。研究会員から4玉ずつ出品された8点から、糖度や形状、ネットの盛り、肉質、食味など審査し岐阜県知事賞含め5点を決定した。

表彰式では審査委員長の飛驒農林事務所長から講評が行われ、非常に高いレベルで生産活動を行うなか、より良いものを生産しようとする共進会の活動が飛驒ブランドを維持しており、今後のさらなる技術向上と9月の香港輸出に期待を述べた。

最優秀賞を受賞した生産者からは、栽培のコツが参加者に説明されるなど、有意義な共進会となった。



【共進会の様子】

■宿儺かぼちゃ 宿儺かぼちゃ圃場審査会を開催！

飛驒地方の特産物である「宿儺かぼちゃ」の栽培管理に優れた生産者の圃場を競う圃場審査会（宿儺かぼちゃ研究会主催）が7月30日（火）に開催された。

今回で6回目となる本会には、予備審査を通過した6圃場について農業普及課長ら関係者が、果実の着果状況や大きさ、管理状況、生育揃い・葉の健全度を審査した。

年々生産者の栽培技術が向上しており、またどの圃場も十分に手入れされているため、甲乙つけがたく審査員を悩ませた。

農業普及課では、今後も栽培技術のレベルアップを図るために宿儺かぼちゃ研究会に対する情報提供等の支援を行っていく。



【審査の様子】

■ほうれんそう 調製作業の共同化に向けた視察研修の開催

ほうれんそう生産においては、下葉とりや根切りなどの調製作業をする作業者の不足が産地の課題となっており、栽培面積や出荷量を増やすことができない原因となっている。

以前からJAひだ及び飛騨市と課題解決に向けた検討を進めており、調製作業の効率化・省力化を進める観点から、8月5日（月）及び6日（火）に関係機関とともに福井県・広島県の共同調製施設の視察研修を開催した。

両県とも地域の人出不足を背景に施設の設置をした経緯があり、福井県ではJA、広島県では地域の民間企業が運営主体となっている。1日の出荷量に波をつくらないことや、品質を一定に保つこと、省力化するための方法について、工夫や難しさを学ぶことができた。

飛騨地域ではどのようなことができるのか、方法は未定だが今後も関係機関と課題解決の方法を検討していく。



【調製作業の様子（福井県）】

■モモ 岐阜市場の親子見学会で飛騨桃をPR！

8月3日（土）、岐阜市中央卸売市場主催で岐阜「市場親子見学会」が開催された。親子見学会は岐阜市内の小学生親子を対象とし、市場内を見学し、市場の役割等を学ぶツアーである。このツアーを利用して、飛騨高山高校の生徒と連携して飛騨桃のPRのため試食及び講義を行った。講義では高校生が主体となって、クイズを入れながら飛騨桃の特徴やおいしい桃の見分け方などについて楽しく学んでもらうことができた。

農業普及課では今後も関係機関と連携しながら「飛騨果実プロジェクトチーム」で飛騨の果実のPRを積極的に行っていく。



【岐阜市場で講義をする様子】